



徳嶺勝信

近年、ベトナムの富裕層の間では日本の高級果実が大人気だ。高額にもかかわらず需要が高く、主要都市のスーパーでは日本産のコーナーがある。ベトナムで売られている日本産果実の中で最も高額なのは北海道の夕張メロンで、1個120万VND⇨ベトナムドン⇨(約6千円)⇨150万VND(約7500円)で売られている。宮崎県産マンゴー「太陽の卵」も高額取引され、約400kgのマンゴーが120万VNDで販売。1kg当たりで換算すると約300万VND(約1万5千円)になる。

輸入経路は、空港での持ち込み輸入が大半で、昨年から特にハノイ市やホーチミン市で活発化している。マンゴーの旬は4～8月。昨年の旬には1kg当たり150万VNDで売られていたが、今年は初物で、最高等級ブランド品として価格帯が高くなっている。完熟マンゴーは日持ちしないことから、予約を受けてから仕入れるため輸入する個数も限られている。

現地販売元は、店頭でマンゴー

## 農作物 沖縄にチャンス ベトナム

を並べ宣伝するつもりだったが、空港に降り立つ前に完売した。高知の高級スイカ「ルナピエナ」やイチゴも高い評価を受けており、日本からのブランド品を手掛けていく流れになっている。

オーガニック志向も強い。ホーチミン市で「ベトナム高品質製品見本市2019」が開催され、オーガニックの焼き芋と、フリーズドライのサトウキビジュースが大人気だった。ベトナムのドライフルーツメーカーの焼き芋は1本5千VND(約25円)で1日平均1600本を売り上げた。サトウキビジュースは、1杯1万8千VND(約90円)で1日平均600杯が売れた。価格のお手軽感とオーガニックが受けたようだ。最近ではオーガニック野菜の専門店も増加し、スーパーでも取扱量が増えてきた。価格は通常の野菜と比べると2～3倍高いが、安心、安全志向が強くなってきている。

農作物における高級志向と手軽なオーガニック志向という、対照的に見える二つの需要だが、どちらも沖縄のビジネスモデルが生かせる環境は整ってきている。チャンスは待ってこない。まずは踏み出す勇気が必要だ。沖縄以外の自治体や諸外国は、すでに取り組み始めている。

(VINACOMPASS代表)

次回は平安常幸・県ソウル事務所長です。